

平成 30 年度第 1 回奈良市食育推進会議録（抄）

開催日時	平成 30 年 8 月 28 日（火）午前 9 時 30 分から 12 時 00 分まで	
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター 9 階 9-1 会議室	
出席者	委員	出席委員 11 人（欠席委員 1 人）
	事務局	6 人
開催形態	公開（傍聴人 0 名）	
担当課	健康医療部保健所医療政策課	
議題	0 食育推進会議の議事進行について 1 食育推進会議委員の選任について 2 第 2 回食育活動表彰の報告について 3 第 2 次奈良市食育推進計画の評価検証について 4 第 3 次奈良市食育推進計画素案について 5 今後のスケジュールについて	

議事の概要及び議題・主な意見等

0. 食育推進会議の議事進行について

当会議規則により瀧川会長が議長となり議事を進行した。前田委員が欠席につき増田氏が代理出席、また、明神委員の欠席につき北浦氏が代理出席となる。規定により代理人は委員権限を公使できないが、管理運営上で過去の事例から代理人の出席、発言を認めることとする。（北浦氏は欠席となった）

1. 食育推進会議委員の選任について

新任委員である萩原委員、福吉委員、吉田委員の挨拶

2. 第 2 回食育活動表彰の報告について

農林水産省より、奈良市食育推進会議が消費・安全局長賞を受賞したと報告された。ネットワーク事業によって地域団体と関係者との連携や協力を促し、世代や業態を超えたコラボレーション創出型の食育活動を生みだしていることが評価された。奈良県内では平成 28 年度ヘルスチーム菜良協議会に続く受賞であり、これまで関係団体や食育推進会議委員の皆様と地道に連携・協力しながら取り組んできたことが評価されたと認識しており、これを励みにさらに皆さんと進んでまいりたい。

3. 第 2 次奈良市食育推進計画の評価検証について

事務局から本市の食育の取り組み実績を報告し、その後、意見交換を行った。

（委員から出された主な意見）

- ・奈良市の食育の水準は全国、奈良県と比較して、どのようなポジションにあるか。

奈良市における一番の問題点は何か。問題点に対して、どのようにアプローチしているか、知りたい。

⇒（事務局）国、奈良県、奈良市それぞれに食育計画が策定されており、別々の計画であるものの、基本的な部分は一致させている。例えば、バランスのとれた食事の設問（主食副食副菜1日2回以上）について、奈良市42.1%、奈良県47.6%とばらつきがあるなど、地域間の特性が見えはじめています。こういった特性を情報共有して、みなさんと協力し、課題解決を図りたい。

・奈良市食育推進計画の数値をあげるために、アンケートを実施することは基本であると考えます。学校でも4年に1度の食育調査があるが、開始から3回目はぐっと数値が下がる。新たな課題に取り組んでいかないといけない。奈良市の数値が奈良県に与える影響が大きい。学校給食でいえば野菜の使用量が大事ではないか。

・第2次奈良市食育推進計画の実績評価において、国の第2次計画策定時も食育の周知が目的であり、関心が集まりやすく、数値が上がった。一方で、第3次計画策定時は食育の実践が目的であり、定着性が低く、数値が上がりづらいように感じた。第3次計画にあたっては、食育の取り組み内容を変更して実践する必要があると思う。

・奈良市において、バランスのよい食事を摂っている人の割合が低い。昨年度から中学校給食が完全実施された。給食に奈良県で採れた食材を用いることで、地産地消の推進が図れるとともに、バランスのよい食事を摂る割合を増やすことができると考える。

⇒（事務局）奈良市として、給食担当部署と連携を図っていく。また、子どもたちの痩せと肥満にもアプローチしたい。

・奈良県・奈良市は全国と比べて安全性に対する認識が低いというのは残念。それに対する具体的なアプローチを知りたい。特に「地産」について安全性が伴っていないと意味がないと思っている。どのように考えているか。

⇒（事務局）アンケートの「食品の安全に関する不安の有無」について、前回85.7%⇒今回77.8%と減少しているが、高い割合を保持している状況。市では生活衛生課に食の安全窓口を設置し、相談に対応している。また、HACCPにも研修会開催するなど取り組みに力を入れている。

4. 第3次奈良市食育推進計画素案について

事務局から第3次奈良市食育推進計画素案についての説明をした後、意見交換を行った。

（委員から出された主な意見）

・農業に携わる人口の減少、高齢化にともなって、耕作面積の減少が問題である。奈良市では非農家から新規就農者が増えてきているが、高単価の農産物（いちご等）が多く、耕作面積は小さくなり、耕作放棄地が増えてしまう。将来的には余った農作地を、食育を利用して活用できないかと考えている。数年前から学校向けの稲刈り体験をやっているが、先生の食育意識によって

児童の食育活動に対する意識や姿勢に違いがあると感じている。

・バランスのとれた規則正しい食事への取り組み、地域伝統食の継承への取り組みは非常に大事。バランスのとれた食事については、子ども食堂、夏休みの昼食開始なども有効になってくると思う。また、地域伝統食の継承については、郷土料理の活用も重要になってくると思う。弁当の日の講習会等の取り組みが第3次奈良市食育推進計画素案に組み込まれているが、今後どのプログラムに組み込まれて、検証されていくのか知りたい。

⇒（事務局）例えば弁当の日については、多様な食育推進や食文化の継承にもあたると考えており、非常に注目している事業である。事業については市単独ではできないことであり、食育ネット連携事業として、例示されている事業以外でもみなさんと連携して行っていきたい。

・食育活動に対する学校ごとの温度差の話があったが、先生の世代交代が急速に進み、教員が知識やノウハウを引き継ぐ時間がとれないことに原因があると思う。

児童は自分で作って食べるのが好きであるため、現在行われている様々な食育のイベントがあることは学校職員、保護者の立場からありがたい。

例えば、給食で郷土料理を企画することで、郷土料理が復活することも実例としてある。課題は多いけれども小さいことから始めていくことが大事。学校での食育活動に力を入れ、食の自立が確立するように取り組んでいきたい。

・食の循環を意識した食育に関しては、食品ロスの問題も近年聞かれるようになった。奈良県にもできたフードバンクと上手く連携していければと思う。住人の立場からしても耕作放棄地が増えていることを実感しており、地域の有志団体で対策に取り組んでいる。

⇒（事務局）フードバンクとは食育ネットに既に参加いただき連携を進めているところである。食品ロスの問題は、環境問題、こどもの貧困問題、福祉とテーマがたくさんある。食育の論点で協力できないかを今後検討していきたい。

・食育フェスタの在り方について、個々の団体が各々ブースを出すのではなく、食育ネットを利用して食育ネットならではの企画（稲刈り体験、シニア食堂で低栄養について講義を展開する等）をする必要があるのではないかと。多様な暮らしに対応した食育の推進としては、それぞれの家族の形にあった細かなフォローをアピールしていきたい。例えば、知識(食材保存方法、短時間の調理方法等)の提供など、テーマ毎に有志で担当するのが良いのではないかと。また子供たちだけでなく、親世代に食育を行うことも重要ではないかと考える。

・小学生の農業体験（アグリスクール）を企画しているが子どもだけでなく、保護者（父母、祖父母）も積極的に楽しんでいる。こういったイベントの広報を SNS の利用などインターネットを用いて発信していけたらと考えている。

・多様な暮らしに対応した食育推進の中、高齢者向けの低栄養について、在宅医療介護の栄養サポート事業については、アウトカム指標の再検討が必要だと思う。高齢者のフレイルを予防する

ためのサポート事業であるならば、栄養バランスの改善よりも、タンパク質摂取の向上という表記を優先するのが良いと思う。

5. 今後のスケジュールについて

平成30年9月16日 食育の未来ワークショップ開催。

本会議、ワークショップでのご意見を参考に評価検証、計画素案の修正を図っていく。

修正案を共有できる形にして、平成30年12月～平成31年1月頃にパブリックコメント

平成31年3月末に計画策定予定。

資料	<ul style="list-style-type: none">【資料1】 奈良市食育推進会議 委員名簿【資料2】 農林水産省食育活動表彰事例集【資料3】 第2次奈良市食育推進計画の評価検証【資料4】 第3次奈良市食育推進計画（素案）【資料5】 奈良市「食育」に関する意識調査票（高校生、18歳以上）【資料6】 奈良市「食育」に関する意識調査結果（18歳以上）【資料7】 奈良市食育ネット参加団体一覧【資料8】 奈良市食育推進会議規則【資料9】 平成29年度食育推進の実践報告事例集 （奈良市教育協議会食育推進部会）【資料10】 第3次食育推進基本計画（国）資料【資料11】 第3期奈良県食育推進計画概要版
----	---